

・遊園地・テーマパークの概況

- 「テーマパーク」の売上高の半分がファンタジー部門 -

・遊園地・テーマパーク数	247事業所
・就業者数	5万1817人
・年間売上高	5908億円
1遊園地・テーマパーク当たり	23億9174万円
就業者1人当たり	1140万円

1. 遊園地・テーマパーク数

平成13年の遊園地・テーマパーク数^(注1)は、247事業所であった。

経営組織別（資本金規模別）

経営組織別にみると、「会社」が174事業所と全体の7割を占めているが、「会社以外の法人・団体、個人」が2割、「国・地方公共団体」が1割と、今回調査の娯楽関連産業8業種^(注2)の中では、「会社」以外の割合が比較的高い。

資本金規模別にみると、「5千万円以上5億円未満」（構成比25.1%）が最も多く、次いで「5千万円未満」（同24.3%）、「5億円以上」（同21.1%）となっている。

経営組織別、資本金規模別の遊園地・テーマパーク数

		平成13年	構成比 (%)
遊園地・テーマパーク数計		247	100.0
会 社	資本規模		
	5千万円未満	60	24.3
	5千万円以上5億円未満	62	25.1
	5億円以上	52	21.1
会社以外の法人・団体、個人		48	19.4
国・地方公共団体		25	10.1

就業者規模別

就業者規模別にみると、「1人～29人」が72事業所と最も多く、以下、「50人～99人」、「100人以上」、「30人～49人」と続いている。構成比でみると、各規模2割弱～3割となっている。

+++++

（注1）「遊園地」とは、樹木、池など自然の環境を有し、かつ、有料の各種遊戯施設を配置し、客に娯楽を提供する業務を営む事業所（客が直接に硬貨・メダル・カード等を投入するものを除き、3種類以上の遊戯施設を有するもの）をいう。「テーマパーク」とは、入場料をとり、特定のテーマのもとに施設全体の環境づくりを行い、テーマに関連するアトラクションを有し、パレードやイベントなどのソトを組み込んで、空間全体を演出して娯楽を提供する事業所をいう。「動物園、水族館、その他」とは、動物園・植物園・水族館・公園・庭園・観光牧場・スポーツランド（総合運動施設）などのうち、上記遊園地の条件を持つ事業所をいう。

（注2）今回調査の娯楽関連産業の対象業種については、「利用上の注意」を参照。

就業者規模別の遊園地・テーマパーク数

	平成13年	
	平成13年	構成比 (%)
遊園地・テーマパーク数計	247	100.0
1人～29人	72	29.1
30人～49人	44	17.8
50人～99人	70	28.3
100人以上	61	24.7

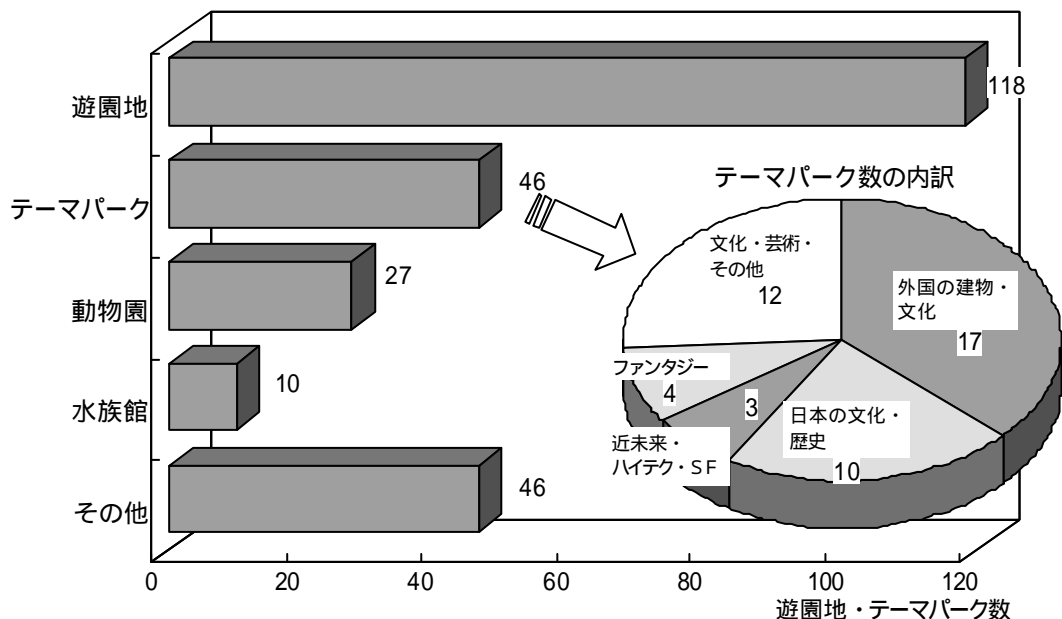
事業形態別

事業形態別にみると、「遊園地」が118事業所（構成比47.8%）と約半数を占め、以下、「テーマパーク」と「その他」（公園、スポーツランド等に付帯しているものなどが含まれる）が46事業所（同18.6%）、「動物園」（動物園に併設されている遊園地）が27事業所（同10.9%）、「水族館」（水族館に併設されている遊園地）が10事業所（同4.0%）となっている。

事業形態別の遊園地・テーマパーク数

	平成13年	
	平成13年	構成比 (%)
遊園地・テーマパーク数計	247	100.0
遊園地	118	47.8
テーマパーク	46	18.6
外国の建物・文化	17	6.9
日本の文化・歴史	10	4.0
近未来、ハイテク、SF等	3	1.2
ファンタジー	4	1.6
文化・芸術・その他	12	4.9
動物園	27	10.9
水族館	10	4.0
その他	46	18.6

このうち「テーマパーク」の設定テーマをみると、「外国の建物・文化」が最も多く、次いで「日本の文化・歴史」、「文化・芸術・その他」と、「文化」をテーマとしたものがほとんどである。



2. 就業者数

平成13年の遊園地・テーマパーク業務に従事する就業者数は、5万1817人であった。

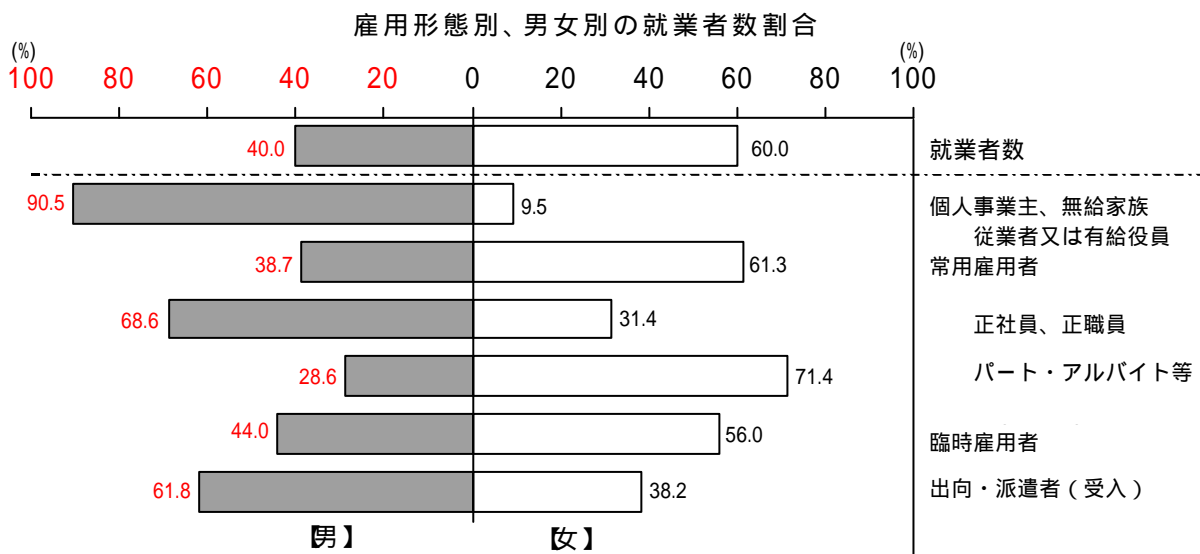
男女別、雇用形態別、部門別

就業者数を男女別にみると、「男」が2万714人(構成比40.0%)、「女」が3万1103人(60.0%)となっている。就業者数に占める女性の割合は60.0%と、今回調査の娯楽関連産業のなかではゴルフ場に次いで高いものとなっている。

就業者数を雇用形態別にみると、「パート・アルバイト等」(3万4795人、同67.1%)、「正社員、正職員」(1万1665人、同22.5%)の常用雇用者が9割を占める一方で、「個人事業主、無給家族従業者又は有給役員」(296人、同0.6%)は、わずかな人数にとどまっている。また、「出向・派遣者(受入)」は1402人(同2.7%)となっている。なお、「パート・アルバイト等」では女性の雇用が7割以上と、高い割合を示している。

就業者数を部門別にみると、「食堂・売店(直営)部門」の割合が最も高く、次いで遊戯施設の運営、操作、実演などの「現業部門」が高い割合を示している。

		平成13年 (人)	構成比 (%)
就業者数計		51,817	100.0
性別	男	20,714	40.0
	女	31,103	60.0
雇用形態別	個人事業主、無給家族従業者 又は有給役員	296	0.6
	常用雇用者	46,460	89.7
	正社員、正職員	11,665	22.5
	パート・アルバイト等	34,795	67.1
	臨時雇用者	3,659	7.1
	出向・派遣者(受入)	1,402	2.7
部門別	管理・営業	3,231	6.2
	出札・案内	2,809	5.4
	現業	15,809	30.5
	食堂・売店(直営) その他	21,040	40.6
	出向・派遣者(受入)	1,402	2.7



事業形態別

事業形態別に就業者数をみると、「テーマパーク」が3万6860人（構成比71.1%）と最も多く、次いで「遊園地」が9839人（同19.0%）となっている。

1 遊園地・テーマパーク当たりの就業者数をみると、「テーマパーク」が801人と、「遊園地」の10倍近くの規模となっている。

「テーマパーク」の内訳をみると、「近未来、ハイテク、SF等」と「ファンタジー」がそれぞれ約1万2千人と、両者合わせてテーマパーク全体の約65%を占める大きな割合となっている。

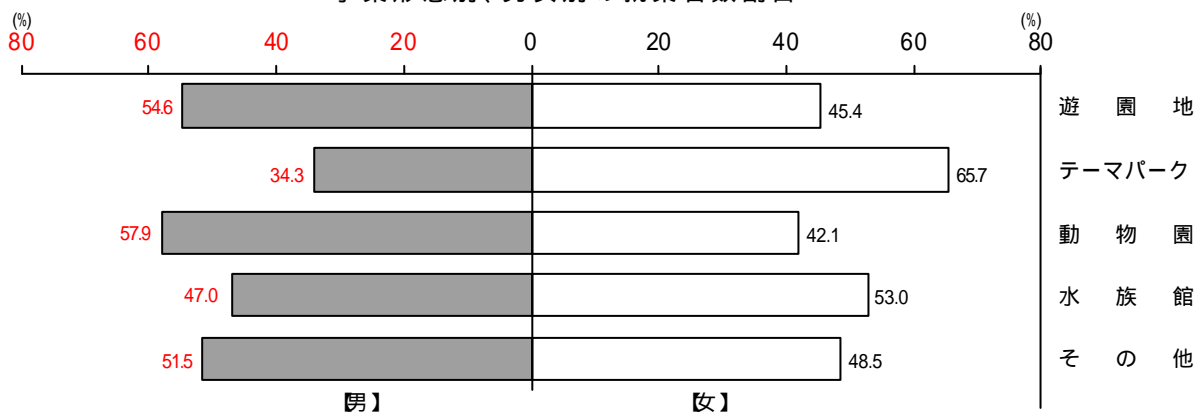
1テーマパーク当たりの就業者数をみると、「近未来、ハイテク、SF等」（約4千人）、「ファンタジー」（約3千人）が群を抜いており、「文化・芸術、その他」、「外国の建物・文化」も、「遊園地」、「水族館」など「テーマパーク」以外の分野を大きく上回っている。

事業形態別の就業者数

	平成13年 (人)	構成比 (%)	1遊園地・ テーマパーク 当たりの 就業者数 (人)
就業者数計	51,817	100.0	210
遊園地	9,839	19.0	83
テーマパーク	36,860	71.1	801
外国の建物・文化	4,372	8.4	257
日本の文化・歴史	585	1.1	59
近未来、ハイテク、SF等	11,965	23.1	3,988
ファンタジー	11,755	22.7	2,939
文化・芸術・その他	8,183	15.8	682
動物園	1,743	3.4	65
水族館	774	1.5	77
その他	2,601	5.0	57

事業形態別就業者数の男女別割合をみると、「遊園地」、「動物園」、「その他」では男性の割合が、「テーマパーク」、「水族館」では女性の割合が高い。これは「遊園地」、「動物園」などでは遊戯施設の運営・操作などの「現業」の割合が高いのに対し、「テーマパーク」では、「食堂・売店（直営）」の割合が高く、かつ「現業」のなかでもアトラクションの実演などに従事する就業者数が多いためであると考えられる。

事業形態別、男女別の就業者数割合



3. 年間売上高

平成13年の遊園地・テーマパーク業務の年間売上高は、5908億円であった。なお、1遊園地・テーマパーク当たりの年間売上高は23億9174万円、就業者1人当たりの年間売上高は1140万円であった。

収入区分別

年間売上高を収入区分別にみると、「入場料・施設利用料金収入」が2637億円（構成比44.6%）、「食堂・売店（直営）売上収入」が2328億円（同39.4%）とほぼ同程度の割合となっている。なお、直営の宿泊施設、食堂・売店の委託経営による収入などが含まれる「その他の収入」は813億円、「駐車場利用料金収入」は129億円であった。

収入区分別の年間売上高

	平成13年 (百万円)	構成比 (%)
年 間 売 上 高 計	590,759	100.0
入 場 料 ・ 施 設 利 用 料 金 収 入	263,730	44.6
食 堂 ・ 売 店 (直 営) 売 上 収 入	232,828	39.4
駐 車 場 利 用 料 金 収 入	12,903	2.2
そ の 他 の 収 入	81,297	13.8

経営組織別（資本金規模別）

年間売上高を経営組織別にみると、「会社」が5740億円、全体の97.2%と、そのほとんどを占めている。「会社以外の法人・団体、個人」（114億円）、「国・地方公共団体」（53億円）の割合は極めて低いが、これは、会社以外の法人・団体や国・地方公共団体の運営する遊園地・テーマパークでは、入場料が無料であったり、入場料金が安く設定されているなど、その設立目的が営利よりも地域振興等にあるため、年間売上高は低いものとなっていると考えられる。

このうち会社について、資本金規模別にみると、資本金5億円以上の遊園地・テーマパークが全体の約8割を占めるなど、大企業の割合が極めて高い。

経営組織別、資本金規模別の年間売上高

	平成13年 (百万円)	構成比 (%)
年 間 売 上 高 計	590,759	100.0
会 社	573,989	97.2
資 本 金 規 模		
5 千 万 円 未 満	43,158	7.3
5 千 万 円 以 上 5 億 円 未 満	65,549	11.1
5 億 円 以 上	465,281	78.8
会 社 以 外 の 法 人 ・ 団 体 、 個 人	11,441	1.9
国 ・ 地 方 公 共 団 体	5,329	0.9

就業者規模別

年間売上高を就業者規模別にみると、100人以上規模が5145億円（構成比87.1%）と最も大きく、次いで50～99人規模が504億円（同8.5%）と、就業者数100人以上規模が9割近くを占めている。

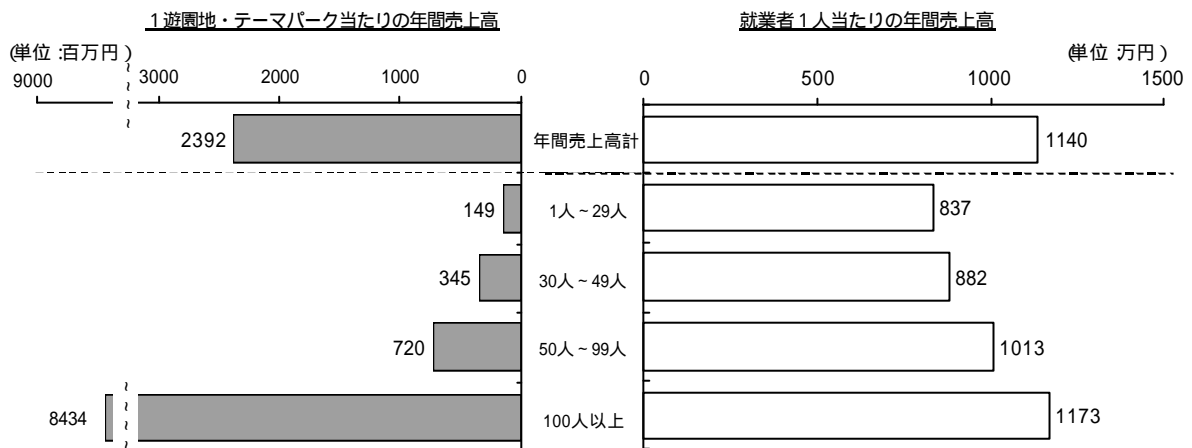
就業者規模別の年間売上高

年 間 売 上 高 計	平成13年 (百万円)	構成比 (%)	1遊園地・ テーマパーク 当たり 年間売上高 (万円)	就業者1人 当たりの 年間売上高 (万円)
		590,759	100.0	239,174
1 人 ~ 2 9 人	10,752	1.8	14,933	837
3 0 人 ~ 4 9 人	15,172	2.6	34,479	882
5 0 人 ~ 9 9 人	50,372	8.5	71,960	1,013
1 0 0 人 以 上	514,462	87.1	843,384	1,173

就業者規模別に1遊園地・テーマパーク当たりの年間売上高をみると、就業者規模が大きくなるにつれ、1遊園地・テーマパーク当たりの年間売上高も大きくなっており、中でも「100人以上」規模が84億円と群を抜いて高い。

就業者1人当たりの年間売上高をみると、就業者規模が大きくなるにつれ、遊園地・テーマパーク当たりの年間売上高も高くなっているものの、規模による差はさほどみられない。

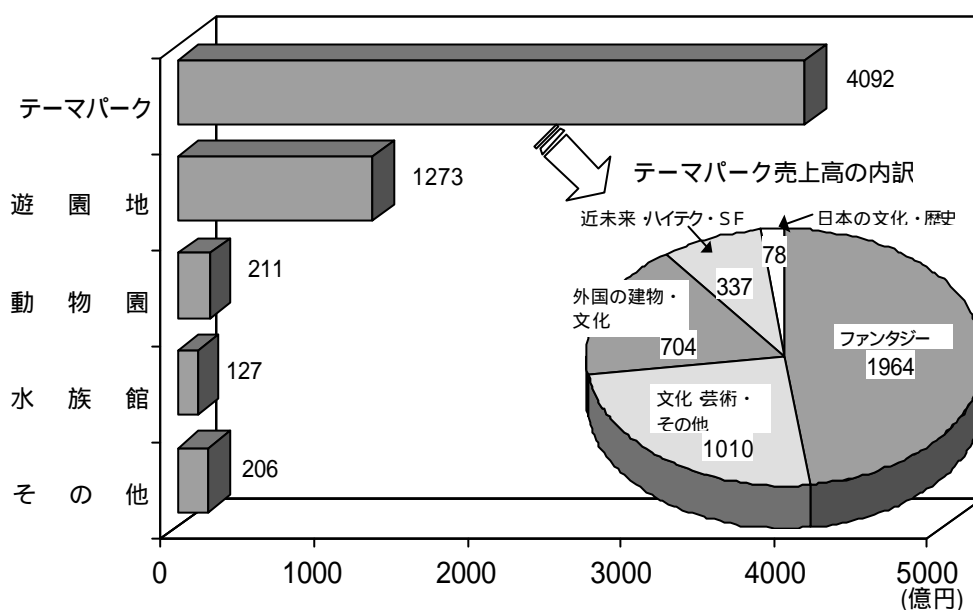
就業者規模別の単位当たりの年間売上高



事業形態別

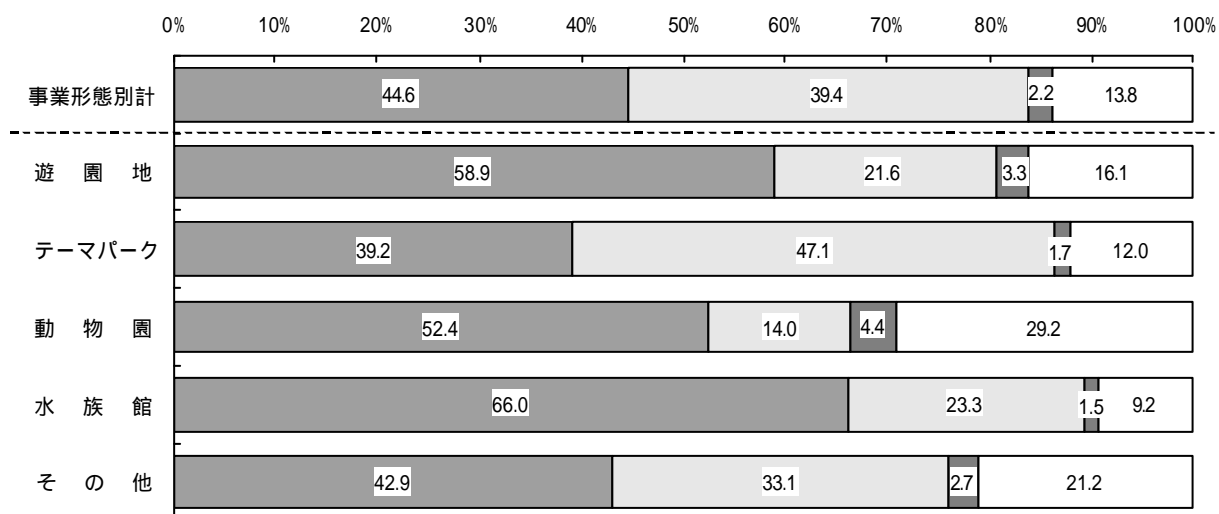
年間売上高を事業形態別にみると、「テーマパーク」が 4092 億円（構成比 69.3%）と約 7 割を占め最も多く、以下、「遊園地」が 1273 億円（同 21.5%）、「動物園」が 211 億円（同 3.6%）、「その他」が 206 億円（同 3.5%）、「水族館」が 127 億円（同 2.1%）となっている。なお、「テーマパーク」の内訳をみると、「ファンタジー」（1964 億円）と「文化・芸術・その他」（1010 億円）が年間売上高 1 千億円超となっている。

事業形態別の年間売上高



事業形態別の年間売上高を収入区分別割合でみると、「遊園地」、「動物園」、「水族館」では「入場料・施設利用料金収入」が半分以上を占めているのに対し、「テーマパーク」では、「食堂・売店（直営）収入」が主力となっている。

事業形態別、収入区分別の年間売上高構成比



■ 入場料 施設利用料金収入 □ 食堂・売店（直営）の売上高収入 ■ 駐車場利用料金収入 □ その他の収入

1 遊園地・テーマパーク当たりの年間売上高をみると、「テーマパーク」が 88 億 9512 万円と群を抜いて大きく、以下、「水族館」（12 億 6503 万円）、「遊園地」（10 億 7840 万円）と続いている。また、テーマパークのなかでもファンタジー部門の 491 億円が際立っている。

就業者 1 人当たりの年間売上高をみると、「水族館」が 1634 万円と最も大きく、以下、「遊園地」（1293 万円）、「動物園」（1211 万円）と続いている。なお、年間売上高の最も大きい「テーマパーク」は、アトラクションや食堂・売店などの多大なマンパワーを要する部門を核としていること、今回調査では開業 1 年未満の大規模事業所があるため、就業者 1 人当たりの年間売上高は比較的低い水準になっている。

事業形態別の年間売上高

	平成13年 (百万円)	構成比 (%)	1遊園地・テーマパーク当たり 年間売上高 (万円)	就業者1人 当たりの 年間売上高 (万円)
年間売上高計	590,759	100.0	239,174	1,140
遊園地	127,252	21.5	107,840	1,293
テーマパーク	409,175	69.3	889,512	1,110
外国の建物・文化	70,411	11.9	414,182	1,610
日本の文化・歴史	7,761	1.3	77,613	1,327
近未来、ハイテク、SF等	33,699	5.7	1,123,309	282
ファンタジー	196,354	33.2	4,908,851	1,670
文化・芸術・その他	100,950	17.1	841,249	1,234
動物園	21,100	3.6	78,146	1,211
水族館	12,650	2.1	126,503	1,634
その他	20,582	3.5	44,743	791

4. 入場者数

平成 13 年の遊園地・テーマパークの年間入場者数は、1 億 926 万人であった。

年間入場者数

年間入場者数をみると、「テーマパーク」が 5083 万人（同 46.5%）と最も多く、「遊園地」が 3553 万人（同 32.5%）、「動物園」が 1247 万人（同 11.4%）と続いている。

テーマパークの年間入場者数

	平成13年 (人)	構成比 (%)	テーマパーク の構成比 (%)	1遊園地・ テーマパーク 当たりの 入場者数 (人)
遊園地・テーマパーク入場者数計	109,260,335	100.0		546,302
遊園地	35,532,566	32.5		428,103
テーマパーク	50,827,575	46.5	100.0	1,104,947
外国の建物・文化	11,910,925	10.9	23.4	700,643
日本の文化・歴史	3,076,972	2.8	6.1	307,697
近未来、ハイテク、SF等	4,932,787	4.5	9.7	1,644,262
ファンタジー	18,587,330	17.0	36.6	4,646,833
文化・芸術・その他	12,319,561	11.3	24.2	1,026,630
動物園	12,466,018	11.4		498,641
水族館	2,497,772	2.3		277,530
その他	7,936,404	7.3		214,497

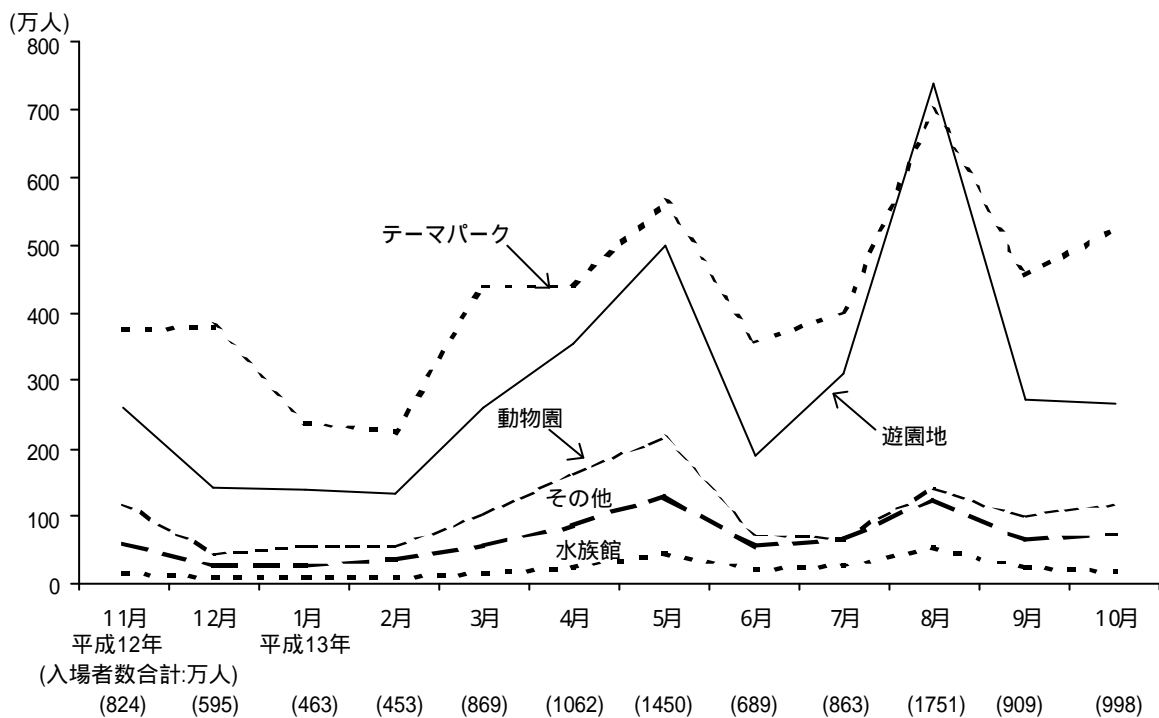
入場者数の最も多い「テーマパーク」の内訳をみると、「ファンタジー」が 1859 万人（テーマパークに占める構成比 36.6%）、「文化・芸術・その他」が 1232 万人（同 24.2%）、「外国の建物・文化」が 1191 万人（同 23.4%）となっている。「近未来、ハイテク、SF等」は、開業 1 年未満の大規模事業所を含んでいるため平成 13 年調査での割合は比較的小さい。

1 遊園地・テーマパーク当たりの年間入場者数をみると、55 万人となっている。内訳をみると、「ファンタジー」が 465 万人、「近未来、ハイテク、SF等」が 164 万人、「文化・芸術・その他」が 103 万人とそれぞれ百万人超となっている。

月別入場者数

年間入場者数を月別にみると、入場者数の多い月は夏休み期間にあたる 8 月（1751 万人、構成比 16.0%）、ゴールデンウィークを含む 5 月（1450 万人、同 13.3%）と、全体的に気候に恵まれた、また、連続的な休暇がある月となっている。

テーマパークの月別入場者数

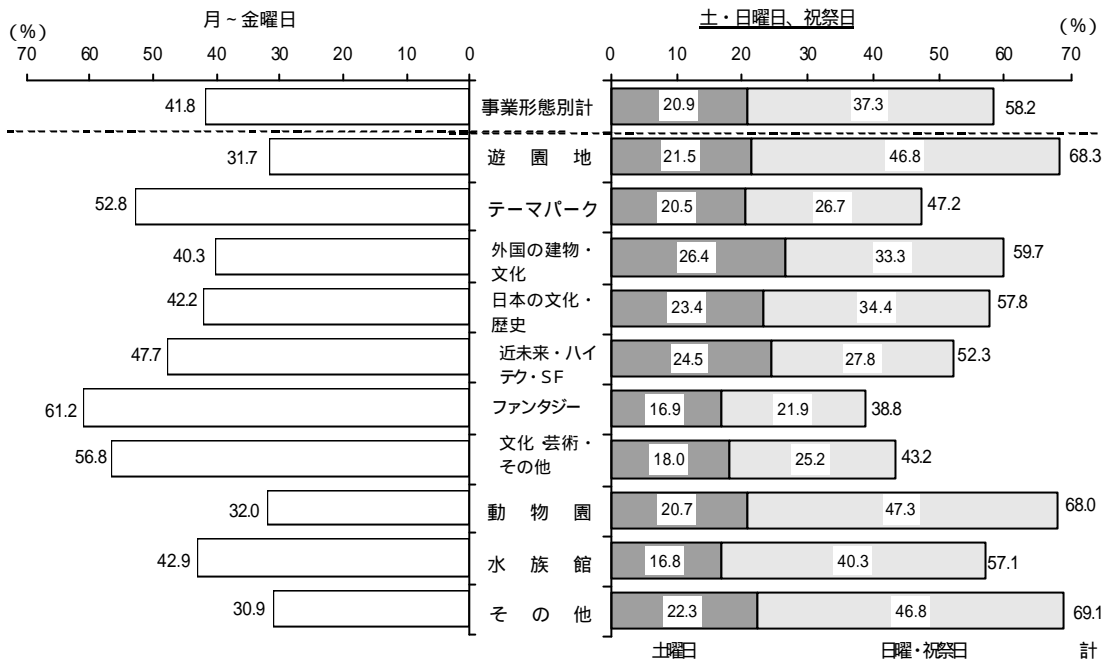


曜日区分別入場者数

曜日区分別に入場者数をみると、「月～金曜日」が 4562 万人（構成比 41.8%）、「土・日曜日、祝祭日」が 6364 万人（同 58.2%）となっている。

事業形態別では、「月～金曜日」の割合が最も大きいのは「テーマパーク」の 52.8%、なかでも「ファンタジー」、「文化・芸術・その他」は 5 割を超えている。一方、「土・日曜日、祝祭日」の割合が高いのは、「その他」（同 69.1%）、「遊園地」（同 68.3%）、「動物園」（同 68.0%）となっている。

遊園地・テーマパークの曜日別入場者割合

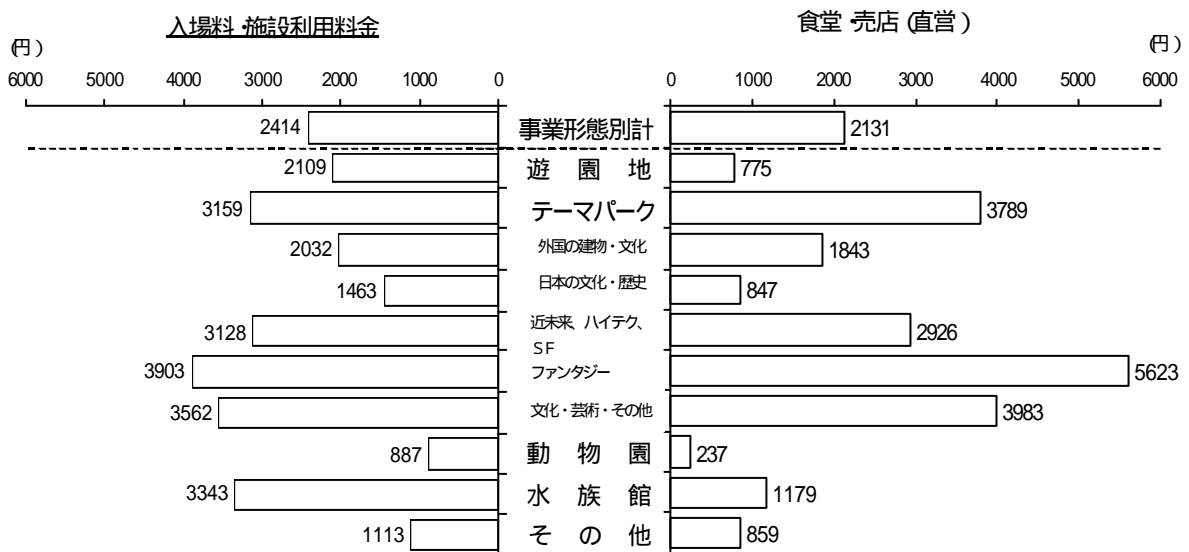


5. 入場者1人当たりの利用料金

入場者1人当たりの利用料金をみると、「テーマパーク」が8050円、「水族館」が5065円、「遊園地」が3581円、「その他」が2593円、「動物園」が1693円と事業形態によりばらついている。「テーマパーク」のなかでは、「ファンタジー」が1万564円と最も高く、「近未来、ハイテク、SF」が6832円、「外国の建物・文化」が5911円と続いている。

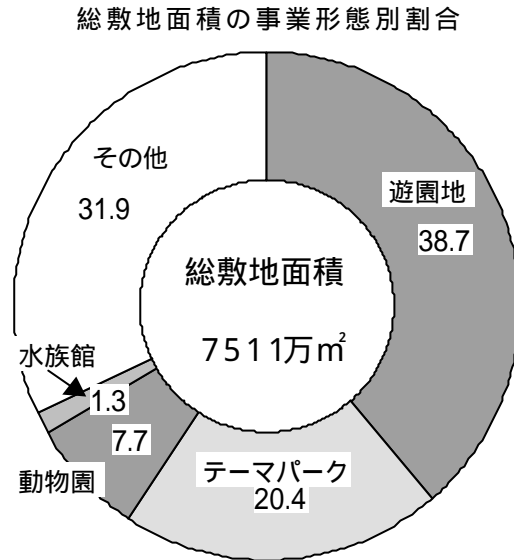
また、「テーマパーク」のうち「ファンタジー」、「文化・芸術・その他」では、「食堂・売店(直営)」が「入場料・施設利用料金」を大きく上回っているが、これは人気キャラクターグッズなどの販売が大きく寄与しているものと考えられる。

入場者1人当たり入場料・施設利用料金、 食堂・売店(直営)利用料金

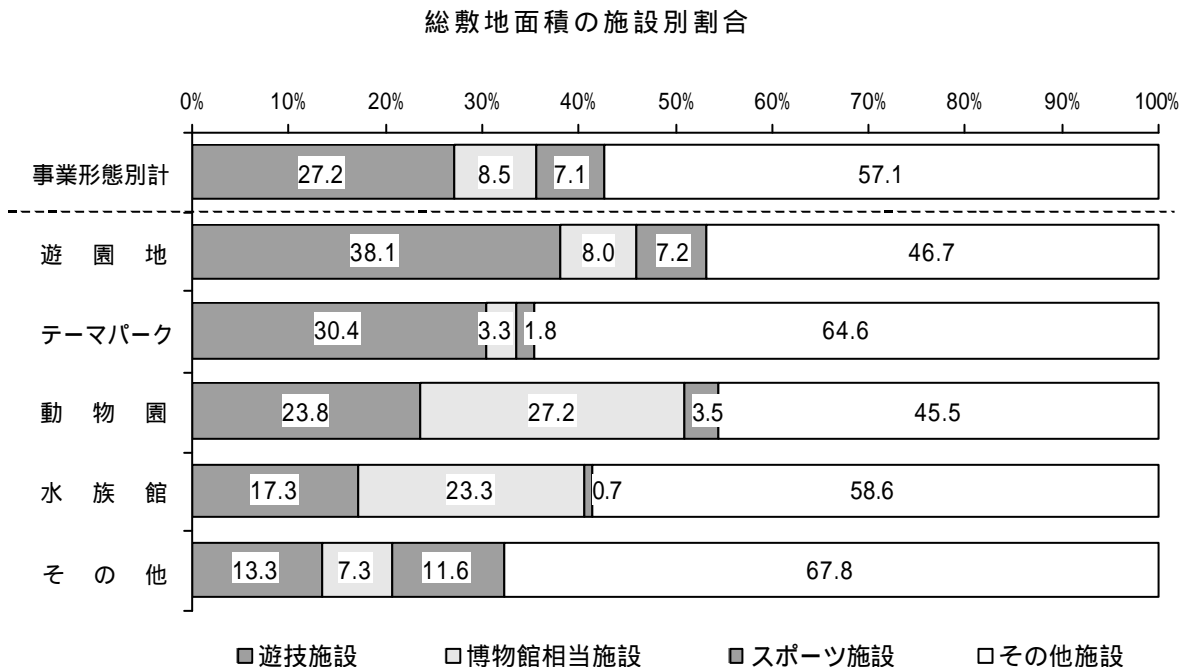


6. 敷地面積

遊園地・テーマパークの総敷地面積は、7511万㎡であった。これを事業形態別にみると、「遊園地」が最も広く2907万㎡（構成比38.7%）、次いで「テーマパーク」が1534万㎡（同20.4%）、「動物園」が581万㎡（同7.7%）、「水族館」が94万㎡（同1.3%）、「その他」が2395万㎡（同31.9%）となっている。



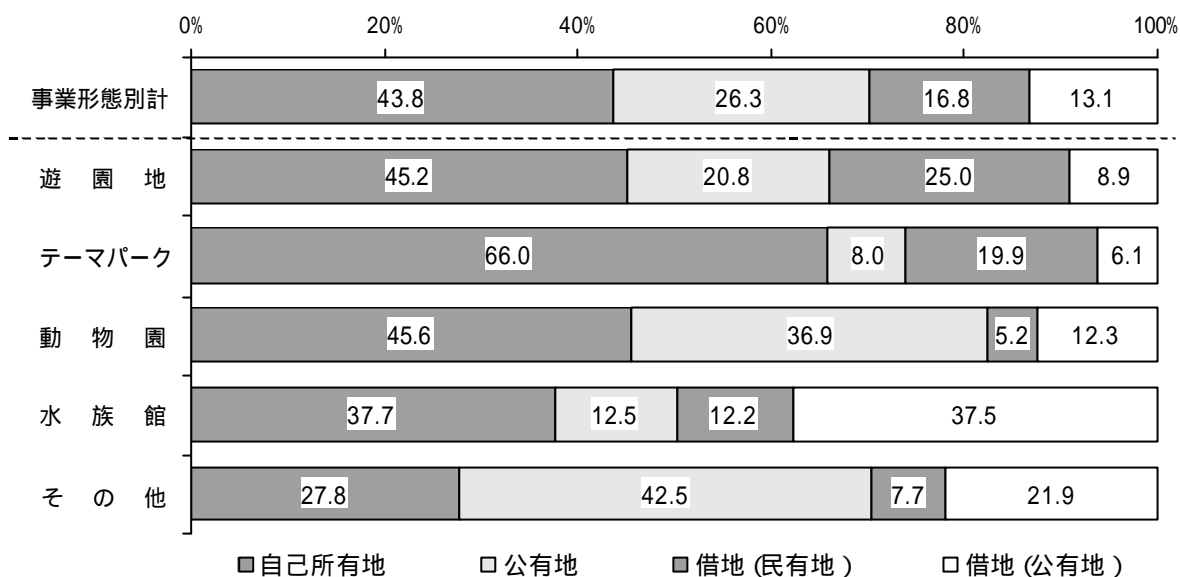
次に施設別割合をみると、樹木・池・広場等の自然環境スペースや食堂・売店、宿泊施設、駐車スペース等を含む「その他施設」の割合がすべての形態で高く、「動物園」、「水族館」では、「博物館相当施設」の割合が比較的高いものとなっている。



また、所有形態別割合をみると、「その他」以外の業態では「自己所有地」の割合が最も多く、「テーマパーク」では約7割、「遊園地」、「動物園」では約5割が自己所有地

となっている。

総敷地面積の所有形態別割合



7.年間営業費用

事業所全体の年間営業費用（遊園地・テーマパーク部門以外を含む）は、5579億円、年間売上高に占める営業費用比率は94.4%となっている。内訳をみると、設備等の賃借料やショー・イベントなどの制作費を含む「その他の営業費用」が2518億円（構成比45.1%）、「給与支給総額」が1251億円（同22.4%）、「食堂・売店営業（直営）費用」が1125億円（同20.2%）となっている。

事業形態別に構成比をみると、「遊園地」、「動物園」、「水族館」、「その他」では「その他の営業費用」が、「テーマパーク」では「その他の営業費用」、「食堂・売店（直営）」の割合が高い。また、「給与支給総額」はいずれの事業形態においても20%～30%程度を占めている。

遊園地・テーマパークの事業形態別年間営業費用

	平成13年 (百万円)					
	遊園地	テーマパーク	動物園	水族館	その他	
年間営業費用	557,933	133,003	371,499	21,941	9,611	21,879
給与支給総額	125,096	29,468	80,967	5,661	2,722	6,278
施設管理費	47,066	15,436	22,417	4,142	1,467	3,604
賃借料	21,474	8,561	9,090	945	496	2,381
食堂・売店（直営）	112,506	15,736	89,343	1,748	1,545	4,134
その他の営業費用	251,792	63,802	169,682	9,444	3,381	5,483

	平成13年 構成比(%)					
	遊園地	テーマパーク	動物園	水族館	その他	
年間営業費用	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
給与支給総額	22.4	22.2	21.8	25.8	28.3	28.7
施設管理費	8.4	11.6	6.0	18.9	15.3	16.5
賃借料	3.8	6.4	2.4	4.3	5.2	10.9
食堂・売店（直営）	20.2	11.8	24.0	8.0	16.1	18.9
その他の営業費用	45.1	48.0	45.7	43.0	35.2	25.1

